

W杯で世界を驚かせた日本人

2022.11.28 校長 西谷 秀幸

皆さんも知っているように、サッカーのワールドカップが、カタールという国のドーハという都市で始まりました。ドーハは、校長先生がブラジルに行くときに、飛行機の乗り換えをした都市です。

昨日、日本はコスタリカに残念ながら負けてしまいましたが、23日（水）には、優勝候補のドイツに逆転勝ちして盛り上がりましたね。コスタリカに負けてしまったのは残念でありませんが、ある解説者は「ドイツに負けてコスタリカに勝ったと思えば同じ」と言っていて、なるほど…と思いました。

さて、前の試合でドイツに勝ったことで、日本代表チームは、世界を驚かせました。でも、世界を驚かせたのはそれだけではなかったのです。

これは、日本チームのロッカールーム、いわゆる更衣室ですが、日本がドイツに勝ったあと、日本代表チームはこのロッカールームの中をすみずみまできれいに掃除して会場を去ったのです。そして、サッカーで試合に出る人数と同じ11羽の折り鶴と「ありがとう！！JAPAN」というというメッセージを置いていきました。



日本のすごいところは、選手やスタッフだけではありません。日本が初めてワールドカップに出場した1998年のフランス大会以来、応援にきたサポーターが日本代表のユニホームの色である青のビニール袋を応援のときに使い、試合後にゴミを拾ってスタジアムをきれいにしているのです。



日本が勝ったときだけではなく、負けたときもそうなのです。さらに言えば、日本が出ていない試合のときも、ゴミ拾いをしているのです。

そんな日本のサポーターの姿を見て、外国のサポーターの人たちも、ゴミ拾いを真似するようになって、日本人のすばらしい行動が世界中に広がっています。そして、その行動を知ったカタールの運営委員会は、日本のサポーターを表彰したのだそうです。

サッカーのワールドカップでは、日本代表の選手たちだけでなく、スタッフも、そして応援していたサポーターも世界中の人にすばらしい感動を与えています。そんな日本人ってすごいなあと思うし、世界中に自慢できますね。皆さんもそんな日本人のもつすばらしいところを誇りに思ってもらいたいし、ぜひ真似してほしいと思います。

昨日の試合は負けてしまいましたが、まだ終わったわけではありません。次は、優勝候補のスペインとの試合です。12月2日（金）の朝4時からなので、寝ている人がたくさんいると思いますが、日本からの熱い応援を届けましょう・

これで朝会のお話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

先週から始まった個人面談、お疲れさまです。今週も続きますが、よろしくお願ひします。大事なことは、成長や頑張りをも7割、課題は3割にすることです。課題ばかり伝えたい場合もあるかもしれませんが、そういうときこそ、頑張りや成長をその2倍以上伝えるようにしましょう。また、時間は必ず守ること。これは、絶対です。どうしても長くなってしまうときは、「その日の最後か後日に改めて時間を設定します」と伝えましょう。基本的なことで信頼を失うことがないようによろしくお願ひします。

さて、先週よりサッカーのワールドカップが始まりました。昨日のコスタリカ戦では、残念ながら負けてしまいましたが、23日(水)に優勝候補のドイツを逆転勝ちしたことは、記憶に新しいところだと思います。そのサッカー日本代表チームに関連して、今回は、4年前に引き続いて、ロッカールームをきれいにして立ち去った日本代表チームと観客席をゴミ拾いするサポーターを話題にしました。サポーターのゴミ拾いについては、ワールドカップに初出場した1998年フランス大会から話題になっていますが、使った場所、お世話になった場所をきれいにして立ち去るとするのは、まさに日本に昔から引き継がれてきた美学だと思います。そこで、先週に引き続いて、そんな日本人の誇りと生きる気概を伝えられたらと思います。そして、それを成丘小の子供たちにも受け継いでほしいと思います。各クラスで実態に合わせて補足をお願いします。

今週は、校内研もあります。2年生の先生方、よろしくお願ひします。

【資料】日本代表、ロッカールームやサポーターのゴミ拾いに関する記事

日本サポーターのゴミ拾い カタール当局が表彰

サッカーFIFAワールドカップ2022で会場のごみ拾いを積極的に行ったとして、日本のサポーターがカタールの運営委員会から表彰を受けました。表彰を受けたのは開幕戦の終了後、会場でごみ拾いを行っていた日本のサポーター約30人です。運営委員会は「感銘を受けた」として急きよ表彰することを決め、サポーターに記念品を贈りました。きっかけは、ごみ拾いの様子を中東のインフルエンサーが取り上げたことでした。再生数は1200万回を超えていて、賞賛の声が相次いでいます。日本人サポーター・角田寛和さん：「これは日本のすべてのサポーターが受けた賞だと思います」また、ドイツ戦終了後には会場ボランティアが勢ぞろいして清掃をしている日本のサポーターに感謝の言葉を伝えるという一幕もありました。

https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000277168.html

日本のサポーター、祝宴は後回しでゴミ拾い 歴史的勝利の後でも

強豪ドイツを破ったという大成果の大きさからすれば、すぐに夜通しのお祝いに突入しても当然だったはずだ。しかし日本のサポーターたちは、どんな状況だろうと、最高のマナーや習慣とは体に染みついたもので、何があろうとそれに沿って行動するのだと、行動をもって表した。試合終了後のスポーツスタジアムといえば、食べ物のトレイや包み紙、飲み物の空カップが散乱しているのがふつうだ。それらは清掃スタッフが片付けることになる。だが、サッカー日本代表のサムライブルーが来ている街では話は別だ。ワールドカップ(W杯)カタール大会の日本対ドイツ戦があったハリファ国際スタジアムでは、過去4度優勝のドイツに2-1で見事に勝利した日本の選手たちがピッチから姿を消すと、すぐに日本人サポーターらは喜びに浸るのを中断させ、ごみを拾い出した。BBCスポーツは公式ツイッターアカウントに、その動画を投稿し、「日本のファンたちの品位ある振る舞い」とたたえた。4年前のロシア大会でも同じ光景が見られた。ベスト16に進んだ日本がベルギーに2-3で逆転負けした試合の後でさえ、その行動は変わらなかった。そして今大会、開催国カタールとエクアドルの開幕戦の終了後にも、また同じことが繰り返された。自分たちが応援するチームとは無関係の試合なのにだ。

観客席にとどまらない。国際サッカー連盟(FIFA)は、ドイツ戦で日本代表が使用したドレッシングルームの写真をツイッターに投稿。試合後の選手やスタッフたちがごみひとつない状態で後にしたことをたたえ、「Domo Arigato(どうもありがとう)」と書いた。日本では、清潔さは文化の一部だ。幼少期から、たたきこまれる。

大阪大学のスコット・ノース教授(社会学)は、日本人にとって片付けや整理整頓は、「自分たちの生き方をいかに誇らしく思っているか、示す」方法なのだ、と、2018年にBBCに話した。「サッカーの試合後の片付けは、子どもたちが学校の教室や廊下を掃除するという、学校で教わる基本動作の延長線上にある」と、ノース教授は話した。たとえ日本が優勝できなくても、そのサポーターたちはすでに勝者だ。

BBC NEWS JAPAN (<https://www.bbc.com/japanese/63742216>)